



# 寺ネット・サンガ通信 第14号

寺ネット・サンガ事務局 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋 KN ビル 4階  
Tel 03-5201-3976・Fax 03-5201-3712・メール info@teranetsamgha.com

## 海外に家族で移住する前にサンガに感謝したいこと

寺ネット・サンガ前事務局長 青木和広



「このような仏教や宗教者、その業界の集まりは生まれては消え、1年もてばいいほうだ」とサンガの設立当初に言われてきましたが、もう9年も経つのですよね。

「超宗派」「お布施のバックマージン廃止」「生老病死の駆け込み寺」など過去は社会活動的な要素が多かったサンガが、事務局体制になってから方向性を改め、「仏教やお寺に触れ、お坊さんとコミュニケーション（坊コン）しよう」という緩い会になったがために長生きができているのだと感じています。（もちろん吉田尚英代表と事務局メンバーのご尽力のお陰ですが）

出会いの場、気づきの場、救いの場として毎月のようにイベントを行い、お寺やお坊さん（牧師他宗教者含む）の意外な一面も垣間見ることができました。初期のころ、個人的にお坊さんはもっと怖い存在（偉そうな人含む）だと思っていましたので、お坊さんも悩んで、お坊さんも一緒になって学び、お酒やたばこも嗜むことを知った時には、「ああ、お坊さんも人間なんだな～」と驚いたものでした。今でもサンガのイベントに新規で参加する方の多くが同じようなことをおっしゃっています。

私のように信仰心がない一般人でもサンガに参加していくにつれ、仏教の魅力、とりわけその『包容力』に魅せられていきました。排他的や独善的ではない、まずは受け入れようとしてくれる度量や、押し付けではなく気づかせてくれる心遣いのようなものを感じるのです。サンガで事務局長をさせていただいている時も、お坊さんに対して生意気で失礼なことを何度も言ったかと思いますが、ほとんど受け入れてもらえ、さらに、次へとつながる気づき、そして成長につなげてくださったように思うのです。

ある日、事務局会議で話されたサンガのスローガン候補の一つで「あなたの宗教性（仏性）を耕す」という言葉が出てきました。今思えば、サンガに参加していくことで、まさに私の宗教性が耕されていたのだと実感しています。家族で千葉の鋸山にハイキングしていた時、途中、目の前に大きな大仏が見えてきたのです。私は思わず合掌して頭を垂れていました。サンガに出会う前の私ならそのようなことはなかったでしょう。また、坊コンのプチ法話を聞くことで『あの世からみた自分の人生』という視点や、『家族や社会とのつながりを持っている自分が言えるわがまま』という（例えば、骨は海に撒いておけばいいという希望は身内のためになるのかなどの）視点からも、【自分本位であった】ことに気づき、特に家族を持ってからはサンガでの学びに救われた思いがしています。

家族といえば、忘れてはいけないのが2008年のサンガウェディング。私と妻の仏式結婚式をサンガメンバーにしてもらったことで縁を強くしてもらい、お陰様で夫婦仲良く、子どもたちもすくすく育てられています。その家族で2016年7月よりカナダのウィニペグに移住することになり、直接サンガをお手伝いできなくなることは寂しいですが、せっかく仲間にしていただいたご縁ですので、海外からも陰ながら応援したいと思っています。

設立10年を迎えるサンガがゆっくりながらも着実に成長しますよう心からお祈りしております。

サンガと皆様に心から感謝を申し上げます。

11月10日(火)



プチ法話「死生観」について 江戸川区 真言宗 密蔵院住職 名取芳彦

「苦」とは自分の都合通りにならないことで、お釈迦様は「苦」を「苦」と思わなければいい、つまり「自分の都合通りにしたいと思わなければ苦は減るじゃないか」とおっしゃったのです。私たちはピカピカの状態で生まれてきたはずなのに、世間で生きていくうちに立場や経験が「珠」を曇らせ、自身がつるつるピカピカであったことも忘れてしまいます。修行をすることは、曇っていないかなと自身の心に問いかけ、汚れを落とす作業とも言えます。そして自身がつるつるピカピカであれば、周囲を輝かせることもできるのです。

12月15日(火)



プチ法話「心に残るあの供養」 大田区 日蓮宗 永寿院住職、吉田尚英

簡略化された葬儀では、僧侶と遺族との関係性も希薄になりつつあります。お酒を酌み交わしながら故人を偲ぶ機会も少なくなっています。通夜や葬儀というのは世代交代の場でもあり、僧侶は積極的に話を聞いたり話をしたりということが大切だと思います。そしてそれが、亡くなった方の思いを繋ぐという意味でも大きな役目を果たすことになるのではないのでしょうか。死生観は大切な方が亡くなった時に改めて感じるものです。丁寧なご供養をすることによって、参列者にも、亡き方にも伝わるのではないかと思います。

2月2日(火)



プチ法話「キリスト教と供養」 日本基督教団 新宿コミュニティ教会牧師 中村吉基

キリスト教では、死者は神の手に抱かれていると考えているので、亡くなった方が迷わず成仏するように「冥福を祈る」というような考え方はありません。その為「死者を憶える」とか「記念する」という言い方をします。特定の故人を記念する「記念会」と呼ぶ集会を開くのが仏教の法事にあたるかと思えます。キリスト教では古来から、葬儀後に死者を「記念する」事をいろいろな形で行ってきました。日本基督教団(プロテスタント)では、死者を記念する日として「聖徒の日(11月の第1日曜日)」に、各教会で特別な礼拝が捧げられます。

3月14日(月)



「供養迷子・店で供養を探す人たち」 寺ネット・サンガ事務局長 樋口清美

「寺離れ」や「終活ブーム」の影響で、供養が誤解されて伝わってしまっているのではないかと危惧しています。仏教では故人の後ろに、安心できる仏の世界があり、亡き方への執着を供養しながら昇華させていくことが出来ます。でも、宗教を持たない人の場合は、お骨を身近な存在として側に置いておきたいという思いが強く、遺された方と故人とが1対1の関係性の中にいるように感じます。宗教を持たない人はこれからも増える傾向にあります。今後は「供養」についてわかりやすく話をしてくれのお坊さんの存在が重要なのではないかと感じています。

5月10日



「葬儀社の目で考える供養」 蒼礼社 代表取締役社長 塩田正資

関東圏では5件に1件以上が直葬になっています。以前は、主に身内のいない方や経済的な理由のある方が直葬を選択していたようですが、最近はコストパフォーマンスで直葬を選ぶケースもあるようです。昨今の「終活」では「自分の最期」をどう考えるかが話題になります。なぜか自分の事ばかりを考えようとします。しかし、葬儀は大抵ご遺族の希望が優先し、亡くなった方ご本人の望み通りにはいかない事もあるものです。むしろ「自分の大切な人をどのように送りたいか」ということをもっと考えても良いのではないかと感じています。

**坊コン談義「あなたの中に生きている亡き人の言葉や思い出」**

亡くなった後にも「死に方」「生き方」が子へと繋がっていくのだ／母の優しさが今の自分に繋がっていると感じている／生きてきた証として「何かを残したい」という思いがある／亡くなった人へ「こういう言葉をかけておけばよかった」など後悔がある／故人から言われたことをいつも考える

**坊コンパネル「死生観について」**

お釈迦様は「死」については答えを語っていない／死の向こう側からこちら側を俯瞰するような見方で「生き方」を見つめる／死は生の延長だと思う。死んだら仏と一体になるのだから安心していいと伝えたい／死生観とは人生観に近いように思っている。自分の死を考えた上で死全体を考える。

**坊コン談義「故人、神仏と思いが繋がったと感じた瞬間」**

亡くなった後、いつも傍にいたような感覚になった／従兄に亡き父が憑依して「こんなお葬式は嫌だ」と言われたので、憑依した従兄のいうように葬式を進めた／辛かった時や迷った時に問いかけた時、故人とつながったと感じる瞬間がある／第六感である心が動く。それがつながる瞬間なのかな？

**坊コンパネル**

若い方はあまり死別の経験が無くスピリチュアルな世界に興味があるようだ／お寺や神社はスピリチュアルなニーズをくみ取れているか／お坊さんは幽霊を怖いといますか？／新人僧侶からベテラン僧侶に質問「お坊さんの在り方とは？」

**坊コン談義「私が、故人を記念するというならば…」**

亡くなった方の遺言を大切にしているが、これが「記念する」ことに当たると思った／仏教の「供養する」とキリスト教での「祈る」ことの違いがわかった／何かのきっかけで故人を「思い出す」ということが「記念する」ということなのか／「神様に憶えてもらう」という考え方が新鮮に感じた

**坊コンパネル「牧師・神父VS僧侶」**

ペット供養を仏教ではどのようにとらえているの？／非業の死を遂げた人や、名もなき方の場合キリスト教ではどう記念するのでしょうか？／牧師さん・神父さんは葬儀ではどんな話をするの？／キリスト教会の跡継ぎはどうやって決めるのか？

**坊コン談義「『宗教・信仰を持たない人についての供養』について一言」**

葬儀の仕方を知らない、何処にどう頼んだらいいのかわからない方がいる／本来なら家の中で示すべき宗教が、核家族化や家庭内の個室化などで家族に伝わっていかないのでは／宗教・信仰を持たない人は、自分なりの死者供養のルールを決めているのではないか

**坊コンパネル**

人の遺灰ではなくとも、ペットのお骨や遺灰をペンダントする人もいる／無宗教で供養を探す人達と、供養のプロであるお坊さんが、今後どうつながっていきけるのか／無宗教のお客さんがどのくらい仏教とのつながりを求めているか／もっとサンガで出来る事があるのではないか

**坊コン談義「大切な人の葬儀をあなたはどうしますか？」**

縁ある人達に来てもらって、思い出をシェアしたい／一回目は身内だけで会食をしてゆっくりと。2回目は大勢で会費制でやりたい／時間のない中で判断できない気がする。葬儀社に誘導されてしまっても分からないかもしれない／大切な人の葬儀でコスパから直葬を選ぶとは思わない

**坊コンパネル「葬儀社VS僧侶」**

葬儀社の仕事は供養の場を作ること、遺族の希望をまとめあげることだと思う／悲しみに暮れるご遺族に寄り添って粛々とセレモニーを進行するのが葬儀社の役目／「供養」とは遺族と故人の関係性の上にあるもの／遺体の処置やケア、首都圏の火葬場事情や葬儀業界の未来について意見交換

# 仏教ひとまわりツアー 平成27年10月～平成28年6月

11月10日(土)

八王子市日蓮宗了法寺



了法寺は「萌え寺」として全国にその名を知られています。可愛い美少女アニメのキャラクターを看板に採用したことから、ネット世界で情報が広がり、海外からも注目されています。中里日孝住職は、この看板をきっかけにお寺を訪ねてくる若者の中には、悩みを抱えている人や、仏教に関心を持つ人もいるといいます。トロ弁天様のフィギュア奉納の際には、本堂に若者がすし詰め状態で法要をされたそうです。

【写経体験】トロ弁天様のイラスト入り写経用紙に、萌え～な気分で写経をさせて頂きました。写経の間はご住職の読経を賜り、お焼香もさせて頂きました。

2月6日(土)

歩いて終活 寺町ウォーキング1



日蓮宗東京都南部宗務所主催、寺ネット・サンガ協力で「歩いて終活 寺町ウォーキング」を開催。終活やエンディングに取り組んできた寺ネット・サンガとして企画・集客に協力しており、「仏教ひとまわりツアー」の番外編に位置付けています。品川区・目黒区の寺院4軒をつないだ5キロほどのコースを半日かけて歩きます。お坊さんと一緒に就活の相談をしながら寺を巡って歩き、「高齢者と看取り」という講演を聴き、お坊さんたちがお題目を唱える中で入棺体験まで盛りだくさんの内容でした。お棺の中ではお題目が降り注いでくるような感覚を味わいました。

4月2日(土)

歩いて終活 寺町ウォーキング2



「寺町ウォーキング」第2回は池上本門寺周辺を、「お骨とお墓『お骨の気持ちでお墓めぐり』』というテーマで歩きました。ウォーキング前に、第一生命経済研究所の小谷みどり氏の講演「だれが墓を守るのか」を拝聴。大坊本行寺の樹木葬墓地「そせい」、池上本門寺「池上廟」、「日蓮聖人御廟所」、五重塔まつり法要、照栄院「久遠林」、永寿院「遺跡霊園」など様々なお墓を巡りました。僧侶の読経を聞きながらカロートの中に入る体験もあり、カロートから出た瞬間に「まるで生き返った様だわ!」との名飛び出しました。終活とは生きている自分を実感する機会なのだと思います。

6月4日(土)

歩いて終活 寺町ウォーキング3



「寺町ウォーキング」第3回は「私のお葬式を考える」というテーマで大田区蒲田から羽田にかけてのお寺3軒を巡りました。『仏教質問箱』の著者、妙安寺住職市川智康師に、お葬式や仏事について質問攻めの後、ウォーキングに出発。途中、葬祭場を見学し、葬儀の打ち合わせをする際に気を付けることや、故人の遺志で葬儀を進行しようとする際の留意点について葬儀社と僧侶の意見交換がありました。長照寺では、日蓮宗の法要の内容について学び、実際に皆でおつとめをしました。仏さまをお迎えしたその前で読経の功德を積み、その功德を亡き方に届けると意味を実感できました。

## 寺ネット・インフォメーション

### 寺ネット・サンガ 今後の予定

7月26日(火) 18:30～20:30 坊コン 「石材店の目で見える供養」プチ講話 石材店 篠田雅央氏

8月22日(月) 18:30～20:30 正会員イベント「心のマッサージ～プチ法話とプチ修行」 吉田尚英師

9月12日(月) 18:30～20:30 坊コン 「仏教的断捨離」プチ法話 松本智量師

### 正会員は寺ネット・サンガのホームページで情報を発信することができます

事務局にお申し出いただきますと、正会員用アカウントを発行させていただきます。ログインして「会員用のマニュアル」に沿って、登録や記事の投稿をしてください。ご自身の活動発表やイベントの告知等、仏教関係のみならずイキイキと生活するための公共の利益になる情報・知識大歓迎です。